

伊藤聡宏設計考作所 Akihiro Ito Architects

一級建築設計事務所。長野県を拠点とし、空き家の調査・利活用、地域の職人技術（漆芸・木工など）の紹介、手工芸品の製作、農作物や消費材の自給生産など、建築を軸に地域の環境風土や暮らしに新たな関係性をつくる幅広い活動を行っている。



First-class licensed architectural design office based in Nagano. Ito takes on a wide range of projects that foster new relationships within a region's milieu and ways of living, centered on an architectural framework. Past work includes surveys and utilization of abandoned houses, promotion of local craftsmanship (urushi lacquer art, woodworking), production of handcrafted items, and self-sufficient production of agricultural crops and lumber.

誰でもできる建築教室の様子

スタジオメガネ建築設計事務所 studiomegane architects

一級建築設計事務所。多摩ニュータウンの商店街に事務所を構える。設計事務所を地域に開き、アートやデザインに従事する人々並びに地域住民と共に、多様な人が関われるオルタナティブ空間「STOA」を自主運営している。地域に開かれた文化の発信拠点を目指すSTOAは、未完成のままに地域と反応しながら変化することを大切にしている。

First-class licensed architectural design office, located on a shotengai (shopping street) in Tama New Town. Together with local residents and cultural workers in art and design, the team self-organizes STOA, an inclusive alternative space, using a part of their office that is open to the public. STOA aims to be an accessible cultural hub that intentionally remains unfinished and adapts in response to the needs of the community.



小豆島に展開するSTOAの改修風景

展覧会関連プログラム PROGRAMS

トークシリーズ 要事前申込

1 アーティスト・トーク

ダンヒル&オブライエンが
出品作品について語ります。

日 時：7月27日(日) 14:00-16:00

参加費：無料

*日英逐次通訳、手話通訳つき

2 DIYライブ by 伊藤聡宏設計考作所 + スタジオメガネ建築設計事務所

本展に出品する建築家チームによる企画。
多様なゲストが「DIY」「つくる」「生きる」
といったテーマについて話します。

参加費：無料
(当日有効の展覧会チケットが必要)

*日英逐次通訳(⑥のみ)、手話通訳つき

①7月26日(土) 14:00-15:30 伊藤聡宏、宮澤祐子・横溝惇(スタジオメガネ)
②8月16日(土) 14:00-15:30 青木彬(インディペンデント・キュレーター)
③8月22日(金) 14:00-15:30 若木くるみ
④9月14日(日) 10:30-12:00 瀬尾夏美、野口健吾 聞き手:永井玲衣(作家)
⑤9月26日(金) 18:00-19:30 伊藤喜彦(東京都立大学 准教授)
⑥10月5日(日) 14:00-16:00 久村卓、ダンヒル&オブライエン

ワークショップ 要事前申込

1 若木くるみ 版画ワークショップ

日時:8月22日(金) 10:00-12:00

2 瀬尾夏美 聞き書きワークショップ

日時:9月21日(日) 13:00-15:00

3 ダンヒル&オブライエン 彫刻ワークショップ

日時:9月27日(土) 14:00-16:00

織物BAR 申込不要

久村卓の作品《織物BAR》のカウンターで
好きな毛糸や布をオーダーし、織物を楽しめます。
時間中出入り自由。

日 時:(すべて金曜日)

7月25日、8月1日、8日、10月3日 13:30-17:30

8月22日、29日、9月5日、12日、19日、26日 16:00-20:00

参加費:無料(当日有効の展覧会チケットが必要)
協 力:ディー・エム・シー株式会社、古着屋SAJI

キッズ+U18デー 申込不要

18歳以下の方とその保護者のために
休室日を特別にオープンします。

日 時:8月25日(月) 10:00~15:00
(入室は14:30まで)

対 象:18歳以下の方とその保護者
小学校3年生以下は保護者同伴での
入室をお願いします。大人(大学生
以上)のみでの入室はできません。

参加費:無料

観覧料(税込)

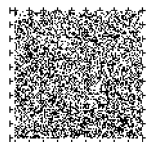
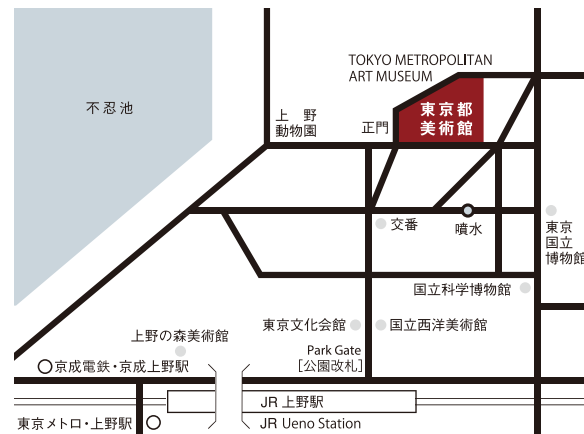
一般 1,100円 65歳以上 800円
大学生・専門学校生 700円 18歳以下、高校生以下 無料

※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名まで)は無料 ※18歳以下の方、高校生、大学生、専門学校生、65歳以上の方、各種お手帳をお持ちの方は、いずれも証明できるものをご提示ください ※「ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢」(東京都美術館)のチケット提示にて、各料金より300円引き ※10月1日(水)は「都民の日」により、どなたでも無料。当日は混雑が予想されます。

交通のご案内

- JR上野駅「公園改札」より徒歩7分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅「7番出口」より徒歩10分
- 京成電鉄京成上野駅より徒歩10分

*当館には駐車場はございませんので、車でのご来館の際はご注意ください
〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36
Tel. 03-3823-6921 <https://www.tobikan.jp>



音声コードUni-Voice

◀左のマークは音声コード「Uni-Voice」です。専用アプリなどで読み取ると、内容を音声で聞くことができます。



最新情報は公式サイトをご確認ください
www.tobikan.jp/diy



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

デザイン: BAUM LTD.(CD), OOKIINU(AD,D)

つくるよるこび 生きるための DIY

Pleasure in Making:
The Creative Spirit
of DIY for Living

伊藤聡宏設計考作所
Akihiro Ito Architects

スタジオメガネ建築設計事務所
studiomegane architects

瀬尾夏美
Natsumi Seo

ダンヒル&オブライエン
Dunhill and O'Brien

野口健吾
Kengo Noguchi

久村卓
Taku Hisamura

若木くるみ
Kurumi Wakaki

2025
7.24 木
10.8 水

主催 東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)
休室日 月曜日、9月16日(火)

*ただし、8月11日(月・祝)、9月15日(月・祝)、9月22日(月)は開室

開室時間 9:30~17:30 金曜日は9:30~20:00 *入室は閉室の30分前まで

会場 東京都美術館 ギャラリーA・B・C

助成 大和日英基金

ダンヒル&オブライエン 《装置:ムーアの木槌 V1》(部分)
2024年 作家蔵 写真: Andrew Watson



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

DIY (Do It Yourself / 自分でやってみる)とは、目の前の問題を自分自身の工夫で解決していくアプローチのことです。日曜大工や住民主体のまちづくりなど、私たちの身近な場面で実践されています。

DIYはより良く生きるための方法であると同時に、不便や困難を乗り越えるための手段でもあります。その過程では、自ら手を動かすことで得られる気づきや達成感といった「つくるよろこび」も味わえるのではないのでしょうか。

本展では、DIYの手法や考え方に関心を寄せる、5組の現代作家と2組の建築家を紹介します。身の回りのものをつくる作品や、多様な人が関わる場のデザインに加え、震災や経済的な事情により多くのものを失った人々の切実な営みにも焦点を当てます。本展を通じて、自分なりの方法と感覚を頼りにつくるDIYと「生きること」のつながりを考えるきっかけになれば幸いです。

瀬尾夏美 Natsumi Seo

1988年東京都生まれ。土地の人びとの言葉と風景の記録を考えながら、絵や文章をつくっている。2011年、東日本大震災のボランティアを契機に、映像作家の小森はるかとのユニットで制作を開始。2012年から3年間、岩手県陸前高田市で暮らしながら、対話の場づくりや作品制作を行なう。2015年、宮城県仙台市で土地との協働を通じた記録活動をするコレクティブ「NOOK(のおく)」を立ちあげる。現在は江東区で「studio04」を運営しながら、過去の災禍の記録をリサーチし、それらを活用した表現を模索する協働プロジェクト「カロクリサイクル」も手がける。

Born 1988 in Tokyo. Seo is a painter and writer whose work examines records of landscapes and languages specific to a region and its people. She began working with filmmaker Haruka Komori in 2011 after volunteering to support recovery efforts following the Great East Japan Earthquake. From 2012 onwards, she lived in Rikuzentakata, Iwate for three years creating artwork and spaces to promote dialogue. In 2015, Seo formed the collective NOOK to document activities conducted in collaboration with the land in Sendai, Miyagi. She currently runs studio04 in Koto, Tokyo, while also managing a collaborative project titled Karoku Recycle, which researches archives of past disasters and explores modes of expression based on the documentation.



つくるよろこび 生きるための DIY

Pleasure in Making:
The Creative Spirit
of DIY for Living

DIY (Do It Yourself) is driven by the desire to live better, engaging individuals in trial and error and working with their own hands. This exhibition will explore the possibilities and potential of DIY to straddle the boundary between art and life, through the perspectives of four solo artists, one artist duo, and two teams of architects.



《地底に咲く》2015 色鉛筆、鉛筆、メディウム、紙

野口健吾 Kengo Noguchi

1984年神奈川県生まれ。写真家。東京藝術大学大学院美術研究科を修了後、路上生活者、バックパッカー、巡礼者、インドのチベット難民、ネパール地震に直面した辺境の村の家族など、多様な人々を撮影しながら、写真・映像作品を制作している。本展では、日本の都市の片隅で生きる人々の姿を捉えた「庵の人々」シリーズを展示する。創意工夫により生活を築く庵主たちの人間模様とともに、ブルーシートや廃材など身近な素材を組み合わせ、DIY的につくられた庵の様相に焦点を当てる。

Born 1984 in Kanagawa. Photographer. After completing his studies at the Graduate School of Fine Arts at Tokyo University of the Arts, Noguchi began making work in photography and film, capturing diverse subjects such as people living outside, backpackers, pilgrims, Tibetan refugees in India, and families in remote villages affected by the April 2015 Nepal earthquake. In this exhibition, Noguchi presents the series The Ten Foot Square Hut, which captures people living on the margins of Japanese cities. The piece focuses both on the lives of the hut occupants and the state of the self-built structures made of familiar materials like blue tarp and scrap wood.

《庵の人々 東京都渋谷区》2011 ラムダプリント



若木くるみ Kurumi Wakaki

1985年北海道生まれ。京都市立芸術大学で木版画を専攻。卒業後、版画という技法を拡張し、自らの身体を版として用いるインスタレーションやパフォーマンス作品など、多様な表現を展開する。2009年には岡本太郎現代芸術賞を史上最年少で受賞。近年は、版画ならではの「摺る」という行為に立ち返り、空き缶や歯磨き粉のチューブなど、日用品を版として再利用する作品を手がけている。

Born 1985 in Hokkaido. Wakaki majored in Printmaking at Kyoto City University of Arts. After graduation, she developed a wide range of works including installations and performances in which she prints with her own body, expanding the bounds of printmaking as a technique. In 2009, she became the youngest recipient of the Taro Okamoto Award for Contemporary Art. In recent years, she has returned her focus to burnishing—a motion specific to printmaking—and repurposes everyday items such as empty cans and tubes of toothpaste to make her plates.

《位置について用意》2024 水性木版、框戸、和紙

ダンヒル&オ布莱エン Dunhill and O'Brien

ロンドンを拠点とするマーク・ダンヒルとタミコ・オ布莱エンは、1998年からアーティスト・デュオとして共同制作を行う。二人は、個々の好みや従来の彫刻制作に伴う複雑な工程にとらわれることなく、協働の難しさと可能性を創造の糧とし、思いがけない発見をもたらしながら表現活動を展開する。独自の装置を作ったり、パフォーマンスや他者との共同作業を取り入れたりしながら作品を生み出している。

Based in London, artist duo Dunhill and O'Brien have worked together since 1998. The dilemmas and possibilities of collaboration continue to drive their curiosity to make work that surprises and challenges them. The quest to bypass their individual taste and their preoccupation with the troubling logistics of sculpture has driven them to work with devices, kinetic apparatus, performative actions, and participants.



《装置：ムーアの木槌 V1》2024 ミクストメディア

久村卓 Taku Hisamura

1977年東京都生まれ。多摩美術大学彫刻学科卒業。ヘルニア発症がきっかけとなり、心身ともに軽さを重視した制作を模索する中で、ハンドメイドからDIYクラフトまで、美術の周縁に位置する技法や素材を積極的に採用するようになる。控え目な手つきで変化を生み出しながら、従来の美術制度の枠組みを問いかけるような作品を制作している。

Born 1977 in Tokyo. Hisamura graduated from the Department of Sculpture at Tama Art University. While seeking emotional and physical lightness in his practice after developing hernia, he began actively incorporating craft supplies and other DIY techniques and materials situated on the periphery of art. Making modifications with a hesitant touch, he produces work that questions the existing systems and formations of the art world.

《PLUS_Ralph Lauren_yellow striped shirt》2025 シャツに刺繍、アブリケ